同窓会会報
第34号
昭和59年4月14日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉渕5965
鯉渕学園同窓会
印刷所
佐藤印刷株式会社

創立四十年記念育林事業

―学園の教育と経営の改善充実のために―

和田文雄

第十六回同窓会大会で、おくればせながら四十周年記念事業について、その大綱を論議し、同窓会としてのこれからのとりくみを決めました。その一つは、育林事業でありもう一つは学園の教育施設の充実強化への協力事業であります。

さて、わが国は水田を中心とした農業国であります。そして同時に木材を介した生活慣習が古来から現在へ、そして将来へとかわることなく継続されるといえます。

この両者の根元にあるものが、山岳であり、そこに生育する林木であります。この林木は第一義的には、木材として私たちの生活に欠くことができないものとなっています。また副次的には水源涵養が行われ、水田農業への水を確保し、林木として景観をつくり、森林浴にみられるように自然を浄化し災害を防止し、人間の健康を自然条件の中に維持させてくれるものであります。

「一年の計は草を植うるにあり、十年の計は木を植うるにあり、百年の計は徳を樹つるにあり」といわれ、個人の生活においても、女の子供が産れたら桐の木を植える習慣もありました。このように、林木は十年、二十年、百年にわたる長い期間を要するためなかなか手がけにくいものとされます。現在、わが国の美林は少くなりましたがその中でも美林とされる山は、徳川時代の領主が伐採を禁止した「おとめやま」あるいは、植林を奨励した地帯に残っています。

そこで、四十年を記念して、同窓会学園一体となって植林、育林の事業を行い、農業と林業とのかかわり、農村指導者としての林業への理解をはかり学園教育の充実を期し、やがて伐採し収益を生ずる時代には、学園の教育資金として学園経営に貢献することができるものとして、これを実施しようとするものであります。

幸い、国(林野庁)において、「ふれあいの森林づくり」事業が推進されていますので、この事業と連結して、国有林の提供をうけ、記念事業を行おうとするものであります。

「ふれあいの森林づくり」には国(林野庁)の定めるきまりがありますのでその範囲内で造林地の選定、撫育管理を行いますが、収益の分配は、造林者八〇%、林野庁二〇%となっています。

そこで当面、茨城県内の国有林を予定地として、国との契約を行うこととします。植林、撫育管理については学生、又は同窓生によって行う方法と地元の森林組合等へ委託する方法などがありますが、基本的には学生の教育、実習として実施すること。各県ごと(地方営林局ごとの適地では)に同窓会支部単位で実施する地方記念林、あるいは同期会ごとに行うものなどが考えられます。

そして、第一年に学生を中心に茨城県内に五ヘクタール程度、その後、学生、県支部、同期会ごとなど合計して二~三ヘクタールづつ植林を継続して行き、伐採期に毎年二ヘクタール位が適期に達するようにする。また樹種についても、スギ、ヒノキなどを中心にしますが、茨城県内などでは、ナラ、クヌギ、ヤシブシなど椎茸原木などとして利用できる広葉樹の造林もとりいれることなどが必要と考えられます。

各都府県ごとには銘木を生産する林業地帯を選び価値ある銘木を県単位で育ててゆくため、また県支部の同窓会活動を活発にしてゆくうえでも役立つものとなるようにしてゆきたいと考えております。

このためには、同窓会はかなりの事業推進のための経費をつくらなくてはならないと思います。また学園では担当責任者を配置し、学生教育としての位置づけを明確にしてもらう必要があります。

目下、木材は不況による桧材の生産調整をしています。しかし一方では外国材の輸入がつづけられていますが、南方材はすでに資源が固渇しています。こうしたことから、いまが植林期として好期であるともいえます。

しかし、何にもまして、学園の農業教育の基本として、森林、林木、農業生産、人間生活といった関わりを復元することにあります。

かつて、学園初期には「農村林業」という授業があり、三井計夫(元草地学会長)先生、小野陽太郎先生(林野庁研究普及官)、深作哲太郎先生(元茨

城県林業試験場長）らが担当しておられた。そして、この「農村林業」を必須の課程としてとり入れた加藤完治先生は、秋田県の老農、森川源三郎翁の故事にならったものである。これを専攻した大山浪雄君（第三期、九州林業試験場）が学園卒業生第一号の農学博士となっている。

この育林事業が、学園、同窓会の事業として、これからのわが国農村、農業にとっても、学園の教育、経営にとっても必ず効果ある事業と信じ、各位の特段のご理解、ご協力によってこの事業を出発させ、継続し、成功させなくてはならないと期している次第であります。

第16回同窓会大会の報告

第十六回同窓会大会は、昭和五十八年十一月五日、午後三時より鯉渕学園同窓会館において開催されました。

先ず、和田会長の挨拶、続いて来賓の吉川学園長より、学生募集、農林水産省事務次官への陳情、寮史編纂等、学園に対する同窓会の後援、協力に感謝の意を表し、今後も協力をお願いする旨の挨拶がありました。

続いて白土忠男氏（東京・九期）を議長に選出して議案の審議に入り、四十周年記念事業を中心に熱心なる討議を経て、午後六時大会をとじました。

承認並びに議決された議案は次の通りです。

尚、大会終了後、学園教職員多数のご出席をいただいて懇親会がひらかれなごやかなうちに大会の全日程を終了いたしました。

一、昭和五十七・五十八年度事業報告

第十五回の同窓会大会の決定に基づ

表1　昭和57・58年度一般会計決算報告書

財産目録

	摘要	金額	内訳
資産の部	現金	103,264	学園経理に保管
	名簿在庫	400,000	200部×2,000円
	合計	503,264	
負債の部	借入金	300,000	基本金会計より借入れ
純財産		203,264	

収支明細表

	科目	予算額	決算額
収入の部	前年度繰越金	24,277	24,277
	会費	3,000,000	1,923,152
	名簿代	1,000,000	1,282,900
	鯉渕学報代	50,000	0
	その他収入	50,000	411,720
	合計	4,124,277	3,642,049
支出の部	会報発行費	1,100,000	720,440
	名簿発行費	1,200,000	1,000,000
	通信費	200,000	299,525
	人件費	600,000	457,750
	事務費	120,000	105,975
	旅費	300,000	392,500
	会議費	150,000	145,725
	鯉渕学報助成費	200,000	0
	予備費	254,277	116,870
	合計	4,124,277	3,238,785
差引残高	差引残高		403,264
借入金返済	借入金返済		300,000
次年度繰越金	次年度繰越金		103,264

表2　昭和57・58年度基本会計決算報告書

財産目録

	摘要	金額	内訳
資産の部	現金	63,076	学園経理に保管
	預金	1,600,000	農協定期110万円、郵便定期50万円
	貸付金	300,000	一般会計に貸付
	合計	1,963,076	
負債の部		0	
純財産		1,963,076	

収支明細表

	科目	金額	摘要
収入の部	繰越金	5,619	
収入の部	入会金	540,000	昭和57年度102名×3,000円 昭和58年度78名×3,000円
	募金	148,000	
	預金払戻し	669,457	普通預金
	返済金	300,000	一般会計に貸付60万円の内30万円返金
	合計	1,663,076	
支出の部	預金	1,600,000	内原農協定期110万円 郵便定期50万円
	差引残高	63,076	現金で経理に保管

いて実施いたしました両年度の事業は次の通りであります。

(一) 会報の発行

第三十二号　昭和五十七年七月

第三十三号　昭和五十八年九月

(二) 会員名簿の発行

発行年月　昭和五十六年十一月

発行部数　一〇〇〇部

(三) 支部会への役員の派遣

鳥根支部会　高橋事務局長出席

栃木支部会　山本常任委員出席

福島支部会　和田会長出席

熊本支部会　和田会長出席

富山支部会　砂田常任委員出席

福井支部会　近先生出席

岩手支部会　桜井副会長出席

山口支部会　西村常任委員出席

(四) 基本金の増資

昭和五十七・五十八年度の間、増資にご協力いただきました会員は十二名で、金額は一四万八〇〇〇円でした。

この中には、昭和五十七年十月をもって退職されました川井観二先生から同窓会館建設の際寄附する機会がなかったのでとする一金五万円の寄附も含まれております。

(五) 鯉渕学園への協力

(1) 学生募集への協力

鯉渕学園に入学した動機について、在学生を対象に調査した結果によれば同窓生の紹介等が最も高く、本会会員の募集への協力は、大きな力になって募集に貢献していることがうかがえます。

(2) 学園教育、特に新農業講習所施設設置に関する支援

イ、茨城並びに近県卒業生と学園職員との意見交換（昭和五十七年七月）

ロ、農林水産省事務次官への陳情

昭和五十八年五月二十四日、農林水産省事務次官松本作衛氏に対し、学園の教育課程の充実に関しての理解並びに国の助成の増加と継続をお願いする陳情をおこないました。

(六) 鯉渕学園寮（仮称）の編纂を計画

同窓会の発展と学園教育に資するため、鯉渕学園寮史（仮称）の編纂を計画し、編集準備委員会を発足させて編集計画の作成と資料の集収や整理にあたってきました。

二、昭和五十七・五十八年度決算報告

昭和五十七・五十八年度の一般会計並びに基本金会計の決算報告書は表一表二の通りであります。

三、監事報告

昭和五十七・五十八年度の事業報告並びに決算報告書は正確適正であることを認めます。

昭和五十八年十一月一日

鯉渕学園同窓会監事　武内十郎　㊞

張替誠一郎　㊞

家村永昌　㊞

「鯉渕学園寮史（仮称）」編纂について

一、編集準備経過

五七年四月　学園教育への協力の一環として案出。

五月　常任委員会にて準備の方針決定。

七月　会報により会長の提案。

五八年一月　編集準備委員会組成（委員学園在職若手職員）し学友会、自治会の保存資について整理開始。

七月　一期（三期同窓生各位にアンケート調査。

一〇月　準備委員会成果を集約。同窓会大会に編集計画および編集委員会結成の議案提出を決定。

二、編集計画

(一) 目的

鯉渕学園（高農含）学生寮の歴史的経過とその意義を明らかにし、よって今後の学園教育および同窓会活動に資する。

(二) 編集委員会

次の諸氏により委員会を構成し運営する。

委員長　和田文雄（本会会長）

副委員長　編集事務長　涌井義郎

事務局　山本英治

他学園在職卒業生

委員　各期より一名計四十名

学友会総務幹事　自治委員長経験者より、事務局で人選のうえ文書で委嘱する。

(三) 寮史の内容

(1) 学生寮歴史年表および解説

(2) 歴史的資料　写真

(3) 回顧録（各期より一～二名）

(4) 特別寄稿（教職員ほか関係者）

(5) 秘話、替唄、その他

(四) 予算、発行部数他

(1) 予算総額　五〇〇万円（一部五千円の予約注文による）

予算内訳　編集費二百万円

印刷、製本三百万円

(2) 発行部数　一千部

(3) 頁数　三百頁内外

(五) 発行予定期日　次期大会日に配布を予定する。

(六) 日程

(1) 資料収集・歴史年表整理―昭和五十九年内終了

(2) 回顧録・特別寄稿―昭和五十九年～六十年四月

(3) 年表解説・寄稿の校正・編集まとめ　昭和六十年七月終了

(4) 印刷製本　昭和六十年十月完了

(七) その他

(1) 在寮当時の生活状況のアンケート調査を全同窓生に依頼

(2) 寮生活回想座談会等の実施

(3) その他編集作業に必要な措置

四、昭和五九・六〇年度事業計画

(一) 会報の発行

第三四号　昭和五八年一二月

第三五号　昭和五九年九月

第三六号　昭和六〇年九月

(二) 会員名簿の発行

昭和六〇年九月　一、〇〇〇部

(三) 鯉渕学園寮史（仮称）の発行

別紙計画書「鯉渕学園寮史（仮称）」編纂について、による。

(四) 学園に対する協力

(1) 学生募集への協力

(2) 新農業講習所設置への支援

(五) 四十周年記念事業

(1) 四十周年記念育林事業

創立四十年を記念して、林野庁の推進している「ふれあいの森づくりに呼応、教育的経営的効果を期待し、本会として学園に働きかけ実施の方向で検討する。

(2) 鯉渕学園施設整備への支援

(3) 募金事業の実施

(1)・(2)の記念事業と鯉渕学園寮史の編纂を目的として、総額一千万円を超える規模の募金事業の実施が決定。常任委員会で具体的に検討の上推進する。

五、昭和五十九・六十年度予算

昭和五十九・六十年度予算は表三の通りです。

六、昭和五十九・六十年度役員

会　長　和田文雄　3期　東京

副会長　常任委員会　桜井昭利　2　学園

副会長　鈴木光雄　8　茨城

常任事務局長　高橋隆三　9　学園

常任委員　小泉信吉　4　茨城

〃　渡辺正信　7　〃

〃　後藤功一　9　〃

〃　真下寿宣　11　〃

〃　三次えい子　11　〃

〃　藤井文信　4　東京

〃　白土忠男　9　〃

〃　前原　敬　16　〃

〃　西村典夫　4　学園

〃　砂田義雄　5　〃

〃　坪野敏美　7　〃

〃　吉沢秀子　7　〃

〃　枝川重二　13　〃

〃　菊地　崇　27　〃

〃　小沼和重　29　〃

〃　入江三弥子　29　〃

〃　山本英治　31　〃

〃　涌井義郎　31　〃

〃　岩間久子　35　〃

監　事　武内十郎　4　東京

〃　張替誠一郎　5　茨城

〃　家村永昌　9　〃

表3　昭和59・60年度一般会計予算

	科目	前年度予算額	予算額	摘要
収入	繰越金	24,277	103,264	
	会費	3,000,000	3,200,000	1,600名×2,000
	名簿代	1,000,000	1,200,000	600部×2,000
	鯉渕学報代	50,000		
	その他収入	50,000	100,000	
	合計	4,124,277	4,603,264	
支出	会報発行費	1,100,000	1,200,000	1回当り送料24万・印刷他16万・計40万×3
	名簿発行費	1,200,000	1,200,000	
	通信費	200,000	250,000	
	人件費	600,000	600,000	事務局長10,000円×24ヶ月・備人15,000×24ヶ月
	事務費	120,000	120,000	
	会議費	150,000	200,000	大会50,000円 常任委員会他15万円
	旅費	300,000	350,000	
	40年記念事業費	−	400,000	学園寮史の編纂も含む
	鯉渕学報助成費	200,000		
	予備費	254,277	283,264	
	合計	4,124,277	4,603,264	

四十周年記念事業の大綱決まる

三月二十四日、同窓会館において常任委員会が開かれました。議題の中心は四十周年記念事業で、出席者は会長副会長をはじめ合計十四名、三時間にわたる深重な審議を経て、次の通り決定しました。

一、鯉渕学園教育施設整備への支援

昭和六十年度（学園創立四十周年）に計画されている「本館建設」について、本会として建設資金の一部を募金によって負担し、本館のより充実をはかるべく支援する。

募金目標額と方法

募金目標額　三千万円

募金方法　一口一万円でお願いする。何口でも可。

後日、募金の期間を定め、趣意書を会員各位に発送してお願いすることになりました。会員各位今から募金の心づもりをお願いします。

二、育林事業

学園でも笠間営林署を通して調査をしているが、本会としても林野庁勤務の卒業生等にご協力いただき、造林地、面積、諸経費等具体的な計画をつくりそれをもって学園に働きかけたり、会としても検討のうえ実施にうつすことになりました。

鯉渕学園「普及専修科設置計画案」を農林水産省に提出

去る三月二十四日の常任委員会に、吉川学園長と南教務課長が出席されて三月二十日付で農林水産省に提出した「普及専修科設置計画案」を本会に説明された。その設置計画案は次の通りである。

一、設置主体　財団法人農民教育協会

二、設置目的　農水省の「新農業講習施設設置構想」にもとずき、実践的な農業技術の指導力を備え、地域農業の発展に貢献しうる農業改良普及員等の人材を養成する。

三、組織　鯉渕学園の付設研修施設として位置づける。

四、入学資格及び入学者選考方法

(1) 鯉渕学園本科二年修了者

(2) 新農業大学校卒業者

(3) 農業または家政関係短期大学卒業者

(4) 上記以上の学力があると認められるもの

本学園の入学選考試験により選抜

五、修業年限　二ヶ年

六、定員　三十名

七、コース制　園芸コース及び畜産コースの二コースを設ける。

八、教育内容　（別紙カリキュラム案及び科目別教育内容一覧表が作成されているが紙面の都合で省略、授業時間数は、一般教養科目三〇〇時間普及関係科目四〇五時間、専門教育科目一六九五時間の計二四〇〇時間となっている）特徴点は下記の通りである。

(2) 科目の構成は農業改良普及員資格試験の試験項目を網羅するが、特に教育学、農業経営学を重視する。

(2) 農業改良普及員としての実践的かつ総合的指導力を養うために実験実習を重視する。特に普及実習は実習を行う地区において、予め農村調査を実施して、地区の農業実態及び農業改良上の問題点を把握しておき、充実した実習内容を持ちうるように配慮している。

(3) 公務員として必要とする基礎的教養科目を備えさせるために、一般教養科目をきわめて広範囲に取上げて理解の確認を図る。

(4) 文学、外国語、卒業論文の授業を通じて文章表現力を養うことに留意している。

(5) 専門教育科目については、短大段階の教育水準よりも高い水準の教育内容を盛込む。

(6) 学生は第一年次から個別研究課題を設定し、教授の指導を受けながら、自学自習の姿勢をもって学習し、卒業時に論文を提出する。

(7) 園芸コース五三科目、畜産コース五五科目のすべてを必須科目とする。

昭和58年度教育施設整備

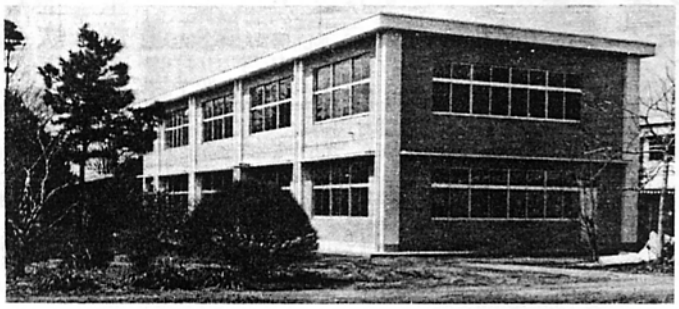
昭和五十八年度国庫補助の教育施設整備は、男子寮前より移改築した木造教室をとりこわして、そのあとに鉄筋コンクリート二階建の教室を新築した。建築費等の次の通りである。

建物　床面積七四六平方米
九千二百七十五万円

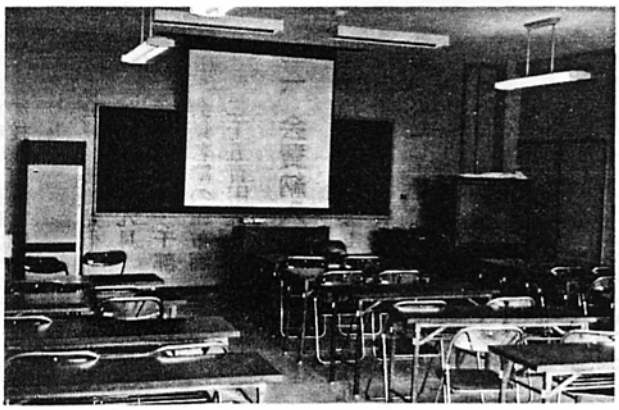
設備　暖房機、机、椅子等
五百四十万円

合計　九千八百一五万円

尚、昭和五十九年度の施設整備は園芸農場に収納舎、酪農場に農機具整備格納庫が新築される予定である。



▲グランドより眺めた新教室



▶教室の内部・視聴覚教室

支部の動き

長野支部 総会開催さる

昭和五十八年十二月十日、松本市浅間温泉において、長野支部総会が開催された。出席者数は約三十名、一期から若い三十四期まで比較的まんべんなく集り、滝沢健夫氏（十九期）を司会に総会が進行した。

特に小林道男（四期）支部長の強い要請で、和田会長、高橋事務局長が出席、四十周年記念事業について説明し理解と協力を要請した。

会は万場一致で大会決定を了承、長野支部として全面的に協力する旨の決定を行った。

長野支部は、会員数約二百五十名、南から北までの主要道路の距離はおおよそ二百六十キロメートル、支部総会はもとより、会員相互の連絡も仲々大変である。そこで、支部を幾つかのブロックに分け、それぞれ代表者を決めて組織の強化をはかり、支部の発展をはかることになった。

旅館の主人がやきもきする程、熱心な審議が行われたあと、場所を別部屋に移して懇談会、大谷大先輩の音頭で乾杯のあと、各自の近況報告、にぎやかな談笑、幕を閉じても心よさが残る支部会であった。（高橋）

神奈川県支部 同窓会開催について

二月七日、午後六時三十分から横浜市中区山下町十六番地の郵便貯金会館で開催。和田同窓会長、一期生（一名）三期生（七名）八期生（一名）計十名参会し、会長から学園の様子や同窓会の活動状況を伺い一同感を深くしました。

会場は七階望洋の間で横浜港の夜景を眼下に、杯を重ねるほどに胸襟を開いて語り合い、久闊の情を尽くして八時三十分有意義裡に散会しました。人数は決して多いとはいえないが、鯉渕で学んだり遊んだりした仲間であり、意気大いにあがり、また、今後この会を開催するときは、電話で呼びかけ一名でも多く参加するようにしようと申し合せました。　一期　山口次夫

学園人事異動

◇退　職

藤田千春　59・3・1依頼

築島　宏　59・3・1停年

（築島先生については引続き嘱託教授としてご協力いただいております。）

森住浩光　59・3・1

◇採　用

掛田智鶴子　59・4・1

学生生活課勤務（38期生）

堀　明徳　59・4・1

酪農場勤務

（臨時・一年間38期）

学生炊事の運営軌道に乗る

昨年七月より変則的な運営を余儀無くされていた学生炊事の運営は、学園担当職員の努力もあって昭和五十九年度当初から軌道にのりました。

職員は全て一新され、自治会で採用する栄養士三名と学園職員一名、それにパート二名によって運営されています。

事務局だより

一、会員名簿の発行について

大会報告にもありますように、昭和六十年九月末日までに会員名簿を発行することになりました。より正確な名簿をめざして努力いたしますが、会員の皆様のご協力がなければ、それも不可能です。住所の変更は勿論のこと住所不明者で住所等がおわかりでしたら是非事務局までお知らせ下さい。

会員名簿発行計画

(一) 学園学籍簿と会員名簿の照合　昭和五十九年中に実施

(二) 支部別会員名簿の支部への発送と点検整理依頼　昭和六十年二月に実施

(三) 昭和六十年度版　会員名簿原簿の作成　昭和六十年六月に完了

(四) 会員名簿の印刷製本（三次以上の校正実施）昭和六十年七月より九月

(五) 会員名簿の発行　昭和六十年九月

(六) 発行部数　一千部

(七) 会員名簿の頒布価　二千五百円程度を予想

二、会費納入のお願い

年度がかわりました。昭和五十九・六十年度の会費二千円の納入をお願いいたします。

和田会長の住所変更について

新住所　〒183　府中市晴見町二―一

府中第二団地二―三〇五

電話　〇四二三―六八―七三三三